

# 第4波 若年層の感染拡大

## 県内、変異株要因か

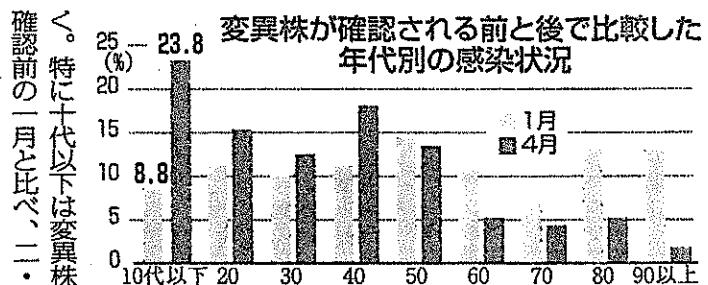
四月に新型コロナウイルスの感染が確認された県内一百八十六人のうち、五割超の百四十八人が十代以下から三十代までの若者たちことが分かった。四十代を含めると七割に達する。変異株が県内で確認される前の一月には若者の感染は二割にとどまっていたが、二月以降の第四波では特に若い世代の感染が目立つ。

＝新型コロナ関連③⑥⑦⑧⑨⑩回

## 10代以下 4月は1月比2.7倍

るが、十代以下が23・8%と最も多く、四十年代18・2%、二十代15・4%と続

(塙下佳鈴)



岩崎博道福井大教授は、「変異株が猛威をふるつた第四波について」「これまでの第二波までとは全然状況が違う」と危機感を示す。変異株は感染力が高いだけではなく、現時点で県内では重症化の実感はないものの「回復に時間がかかる印象がある」という。感染対策については「マスクの着用と手洗いといった基本的な対策をこれまで以上に徹底する必要がある」と指摘する。

大型連休を迎えると、会食や外出の機会も増える。県の担当者は「県をまたいだ往来は控えて、食事中にマスクをせずに感染するケースが非常に多いので、マスク会食をしてほしい」と呼び掛けている。

県では、「4月に変異株が染が再拡大。二度目となる」報が発令された四月三日初めて確認されて以来、県独自基準の「感染拡大警」には杉本達治知事が「第四波」と書いて「おおかじしない」との認識を示した。その後も勢いは止まりせず、県は特別警報、緊急事態宣言（五月十三日まで）を相次いで発令した。

県の感染者の割合を年代別にみ